

2020. 1. 31 (日) 詩篇91:1~16

- 91:1 いと高き方の隠れ場に住む者 その人は 全能者の陰に宿る。  
91:2 私は主に申し上げよう。「私の避け所 私の砦 私が信頼する私の神」と。  
91:3 主こそ 狩人の罠から 破滅をもたらす疫病から あなたを救い出される。  
91:4 主は ご自分の羽であなたをおおい あなたは その翼の下に身を避ける。  
主の真実は大盾 また砦。  
91:5 あなたは恐れない。 夜襲の恐怖も 昼に飛び来る矢も。  
91:6 暗闇に忍び寄る疫病も 真昼に荒らす滅びをも。  
91:7 千人が あなたの傍らに 万人が あなたの右に倒れても それはあなたには 近づかない。  
91:8 あなたはただ それを目にし 悪者への報いを見るだけである。  
91:9 それは わが避け所 主を いと高き方を あなたが自分の住まいとしたからである。  
91:10 わざわいは あなたに降りかからず 疫病も あなたの天幕に近づかない。  
91:11 主が あなたのために御使いたちに命じて あなたのすべての道で あなたを守られるからだ。  
91:12 彼らはその両手にあなたをのせ あなたの足が石に打ち当たらないようにする。  
91:13 あなたは 獅子とコブラを踏みつけ 若獅子と蛇を踏みにじる。  
91:14 「彼がわたしを愛しているから わたしは彼を助け出す。彼がわたしの名を知っているから わたしは彼を高く上げる。  
91:15 彼がわたしを呼び求めれば わたしは彼に答える。わたしは苦しみのときに彼とともにいて 彼を救い 彼に誉れを与える。  
91:16 わたしは 彼をとこしえのいのちで満ち足らせ わたしの救いを彼に見せる。」

<説教>

詩篇91篇は後にその11,12節を、悪魔が荒野でイエスを誘惑するために利用したこともよく知られている詩篇です。(cf. マタイ4:6、ルカ4:10,11)

そのように、悪魔が神の子を誘惑するための、言うなれば殺し文句として利用したほど、それほど大胆で確信に満ちた、主なる神に対する全き信頼の告白、信仰告白です。

最初の1,2節で詩人は主題と言うべき内容を告白します。

- 91:1 いと高き方の隠れ場に住む者 その人は全能者の陰に宿る。  
91:2 私は主に申し上げよう。「私の避け所 私の砦 私が信頼する私の神」と。  
普段どんな所に住んでいようと、私は実は〈いと高き方〉〈全能者〉なる〈主〉の隠れ場、陰に住み、宿っている者だと詩人は自己紹介します。  
そして〈全能者〉なる〈主〉に向かって信仰をもって言い表します。  
彼にとって〈主〉が自分の〈避け所(避難所、シェルター)〉、〈砦(城壁、城壁のそびえ立つ要害)〉であってくださっている、それゆえ自分はこのお方を〈私の神〉として全く〈信頼する〉と言うのです。  
〈主〉が〈私の神〉でいてくださるので、その〈主の真実〉(4)のゆえに自分は歩む〈す

べての道で) (11) 全く安全だと確信していたのです。

また〈私が信頼する私の神〉として〈呼び求め〉(15)る、すなわち祈ると言うのです。

そして詩人は、いや〈主〉は自分だけではなく〈あなた〉の〈避け所〉〈砦〉、あなたが〈信頼〉すべきあなたの〈神〉なのだと言います。

もっとも、もしかしたら詩人は自分に向かって(「私のたましいよ」というような意味で)「あなた」と語っているのかもしれませんが。

いずれにせよ、私であれあなたであれ、〈全能者〉主なる神に全く信頼して自分の〈避け所〉〈砦〉、〈自分の住まい〉(9)とする者に対する〈主〉の守り助けの〈真実〉なことを詩人は語ります(3-13)。

**91:3 主こそ 狩人の畏から 破滅をもたらす疫病から あなたを救い出される。**

**91:4 主は ご自分の羽であなたをおおい あなたは その翼の下に身を避ける。主の真実は大盾 また砦。**

〈主こそ…あなたを救い出される〉お方です。

親鳥がその羽・翼の下に自分のひな鳥をすっぽりと覆って守り、養い、育てるように、〈主〉が〈ご自分の羽であなたをおお〉ってくださるので、〈あなたは その翼の下に身を避ける〉ことができます。

〈大盾〉とは全身をすっぽりと覆って守るものです。

「主よ まことにあなたは 正しい者を祝福し 大盾のように いくつしみでおおってくださいます」(詩 5:12)とあります。

ここの〈砦〉という言葉も「ぐるりと巡る」という意味が語源です。

〈主〉は〈真実(誠実、忠実、確か、安定)〉に〈あなた〉を全身丸ごと守ってくださると詩人は告白するのです。

この〈真実〉な〈主こそ〉が〈狩人の畏〉からも〈破滅をもたらす疫病から〉も確実に〈あなたを救い出される〉のです。

この〈主の真実〉に全く信頼する〈あなたは恐れない〉のです。

**91:5 あなたは恐れない。夜襲の恐怖も 昼に飛び来る矢も。**

**91:6 暗闇に忍び寄る疫病も 真昼に荒らす滅びをも。**

〈夜襲(直訳「夜」)の恐怖〉と〈昼に飛び来る矢〉、これは〈狩人の畏〉(3)の言い換えとも言えます。

そして〈暗闇に忍び寄る(直訳「暗闇の中を歩き回る」)疫病〉と〈真昼に荒らす滅び〉、これは〈破滅をもたらす疫病〉(3)の言い換えとも言えます(〈滅び〉は「悪疫」(申 32:24)、「疫病」(ホセア 13:14 欄外注・別訳)とも訳されています)。

このように詩人は、人間や動物に死と破滅をもたらす恐るべきもの(の例え)として〈狩人の畏〉と〈疫病〉をこの詩篇で挙げました。

〈狩人の畏〉とは〈悪者〉(8)が加えよう企てる危険や攻撃のことでしょう。

そして〈疫病〉も何か命を脅かす恐ろしいことの例えかもしれませんが、〈疫病〉それ自体が死の〈破滅をもたらす〉恐ろしいものです。

〈畏〉や〈矢〉なら注意していれば見つけたり、避(よ)けることがまだできるかもしれません。

しかし〈疫病〉はそれよりはるかに厄介だったのではないのでしょうか。

さすがに詩篇の時代には今のような「感染症」という認識はなく、ウイルスを実際に見たりすることはできなかつたでしょう。

暗闇でも真昼でも昼夜関係なく発病し、原因不明のまま人も動物もばたばたと死んでいくのですから、それは〈恐怖〉以外の何物でもなかつたでしょう。

イスラエルの民にとっても、〈疫病〉は人間（イスラエルの民であれ異教徒であれ）の罪に対する神のさばきの手段として知られ、その意味でも恐るべきものでした（出エジプト 5:3 レビ 26:25 民数記 14:12 申命記 28:21 等）。

しかし民が神の前にへりくだり、悔い改めて神に祈るなら、神は罪を赦し、疫病を静めてくださるとというのがイスラエルの民の信仰でした（ex. II サムエル 24 章 I 列王 8:37-40 I 歴代 21 章 II 歴代 6:28-30、7:13,14 等）。

もちろんそれも彼らを〈大盾のように いつくしみでおおう〉（詩 5:12）主なる神のあわれみ、恵みによること、また〈主の眞実〉によることでした。

そのように、〈破滅をもたらす疫病〉〈暗闇に忍び寄る疫病〉から〈私〉〈あなた〉を〈救い出される〉のは〈主〉だけです。

それゆえ、〈あなたは恐れない〉と詩人は断言するのです。

そのように、主に〈私の避け所 私の砦 私が信頼する私の神〉と告白して〈主の眞実〉に全く依り頼むご者を〈主〉は確かに救いになります。

その一方、ご自身に信頼せず、ご自身を避け所、砦としない者、それゆえ悔い改めてご自分に立ち返らない者、ご自分の民をご自分から引き離し墮落させ破滅をもたらそうとする〈悪者〉には〈主〉はどこまでも厳しく臨まれ、必ず報復して下さいます。

91:7 千人が あなたの傍らに 万人があなたの右に倒れても それはあなたには 近づかない。

91:8 あなたはただ それを目にし 悪者への報いを見るだけである。

91:9 それは わが避け所 主を いと高き方をあなたが自分の住まいとしたからである。

あの出エジプトのとき、エジプトへの災い（中には疫病もありました）がイスラエルの民には及ばなかつたこと、過越の夜のこと、そしてイスラエルの民を追いかけて来たファラオの軍勢が紅海で滅ぼされたことが思い起こされます。

そのように〈悪者への報い〉は〈全能者〉である〈主〉がしてくださり、その結果も〈主〉が見せて下さいます。

ですから〈わが避け所 主を いと高き方を〉〈自分の住まい〉とすること、即ち主を〈私の避け所 私の砦 私が信頼する私の神〉と言い表して、全面的に信頼することがとにかく大事なのです。

そして〈主〉は詩人にファラオの軍勢（ご自分の民を滅ぼそうとした）ならぬご自分の軍勢（ご自分の民を守る）〈御使いたち〉についてお示しになりました。

91:10 わざわいは あなたに降りかからず 疫病も あなたの天幕に近づかない。

91:11 主が あなたのために御使いたちに命じて あなたのすべての道で あなたを守られるからだ。

91:12 彼らはその両手にあなたをのせ あなたの足が石に打ち当たらないようにする。

91:13 あなたは 獅子とコブラを踏みつけ 若獅子と蛇を踏みにじる。

あのときも〈神の使い〉がファラオの軍勢とイスラエルの民の間に入ったので、一晩中

ファラオの軍勢がイスラエルの民に近づくことができないということもありました。

〈わざわざは あなたに降りかからず 疫病も あなたの天幕に近づかない〉のはただひとえに〈あなたのすべての道で あなたを守られる〉と約束してくださる〈真実〉な〈主〉のみわざなのです。

すぐ後で、〈わたしは苦しみのときに彼とともにいて彼を救い〉(14)と主は言われます。

ですから、主に信頼する者が〈畏〉〈疫病〉などの〈わざわざ〉〈苦しみ〉を経験しないということではありません。

しかしたとえ〈畏〉〈疫病〉〈苦しみ〉に遭うことがあるとしてもすることがあったとしても、〈主〉がその〈苦しみ〉から〈破滅〉から救い出してくださいます。

私たちが〈わざわざ〉〈疫病〉そのものから守られ、またはたとえそれらに遭ったとしても〈破滅〉から守られているのは、偶然とか幸運によるものではありません。

ただひとえに〈主〉私たちの〈すべての道で〉つまり全生涯に渡って、あらゆる場面で私たちを〈守られるから〉にほかなりません。

〈石〉は歩いている〈道〉の上にあるものですが、その〈石〉に〈あなたの足が打ち当たらないように〉〈主〉がご自分の〈御使いたちに命じて〉〈その両手にあなたをのせ〉て運んでくれるようにして守ってくださると詩人は言います。

むしろその守られた足でもって〈獅子とコブラを踏みつけ 若獅子と蛇を踏みにじる〉勝利の歩みをさせてくださいます。

〈主が…御使いたちに命じて…守られる〉というのですから、それらはまさに〈主〉による〈主〉のみわざです。

どこまでも〈真実〉な〈主〉が、ご自分の全く善なるご意志に基づいて、ご自分のなさり方で(主権で)なさることです。

ですから、〈私〉〈あなた〉のなすべきは、その〈主〉に全く信頼し、お委ねすることです。

そして悪魔の誘惑に負けて〈主の真実〉を疑ったりしないこと、〈主〉を試みたりしないことです。

詩人の確信に満ちた大胆な信仰告白に対して〈主〉はお応えになり約束を一層確かにしてくださいました。

**91:14** 「彼がわたしを愛しているから わたしは彼を助け出す。彼がわたしの名を知っているから わたしは彼を高く上げる。

**91:15** 彼がわたしを呼び求めれば わたしは彼に答える。わたしは苦しみのときに彼とともにいて彼を救い 彼に誉れを与える。

**91:16** わたしは 彼をとこしえのいのちで満ち足らせ わたしの救いを彼に見せる。」

詩人が〈主〉を〈愛している〉のは、〈主〉の〈名を知っている〉のは、もちろんまず〈主〉が〈彼〉を〈愛して〉くださり、ご自身を彼にお示しになり知らせてくださったからです。

「わたし、〈全能者〉である〈主〉がああなたの〈避け所〉、あなたの〈磐〉、あなたが〈信頼する〉ああなたの〈神〉である」と。

また〈主〉が、イスラエルの民の歴史を通して、また〈彼〉のそれまでの〈すべての道〉を通して、ご自分を〈愛し〉、〈信頼する〉者、〈呼び求め〉る者の〈苦しみのときに彼と

ともにいて)〈彼に答え〉、〈彼を救い 彼に誉れを与える〉ことを教えてくださっていたからでしょう。

〈主〉はすでに〈彼をとこしえのいのちで満ち足らせ〉、ご自身の〈救いを彼に見せ〉ておられました。

今日私たちも、イエス・キリストにあって、イエス・キリストによって詩人と同じく〈主〉に〈愛〉され、〈主〉の〈名〉を知らされています。

甚(はなは)だ不十分であり、不完全ですが、それでも〈主〉を〈愛し〉、〈主〉の〈名〉を知り、〈主〉を〈呼び求め〉ています。

〈主の真実(真理)〉であり、罪と死と悪魔に打ち勝たれたイエス・キリストによって〈とこしえのいのちで満ち足らせ〉ていただいています。

私たちは特別に〈主〉の〈救い〉を〈見〉させていただいており、〈全能者〉〈主〉の〈羽〉〈翼〉〈大盾〉でおおわれ、守られているのです。

新型コロナウイルス感染症という〈疫病〉が蔓延している中でも、またその他の〈わざわい〉〈苦しみ〉の中でも〈主〉が〈私の避け所 私の砦 私が信頼する私の神〉なのです。

ならば〈あなたは恐れない〉と詩人は断言します。

イエス・キリストを信じ、イエス・キリストにある永遠のいのちを頂いている私たちには、生きるにしても、死ぬにしても〈主〉が〈私の避け所 私の砦 私が信頼する私の神〉なのです。

それゆえ、私たちが一層確信をもって、一層大胆不敵に、詩人のように〈主〉に全面的に信頼し、どんなときでも〈主〉を〈呼び求め〉、〈主〉のみことばに聞き従い、〈主〉の御意思(みこころ)を行くように、〈主〉のあわれみ、助けを心から願います。